

neurons. 第38回日本神経科学大会, 神戸, 7月.

- 2) Kawamura M. (Poster sessions: Mood disorders · Stress · Epilepsy) The basic mechanisms underlying ketogenic diet: a neuronal autocrine regulation through adenosine receptor. 第58回日本神経化学学会大会, さいたま, 9月.
- 3) Harada H<sup>1)</sup>, Beppu K<sup>2)</sup>, Matsui K<sup>2)</sup> (<sup>2</sup>Tohoku Univ), Nakamura Y, Watanabe M (Hokkaido Univ), Sakamoto H<sup>3)</sup>, Namiki S<sup>3)</sup>, Hirose K<sup>3)</sup> (<sup>3</sup>Univ Tokyo), Shigemoto R<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>IST Austria). High resolution analyses of presynaptic protein localizations in the stimulated parallel fiber-Purkinje cell synapses. Neuroscience 2015 (Society for Neuroscience 45th Annual Meeting), Chicago, Oct.
- 4) 西條琢磨, 初山俊彦. (一般演題 (口頭): 中枢② 神経伝達物質・シナプス2) カリウムチャネルを介したセロトニンによるラット前脳基底核アセチルコリン性ニューロンへのGABA遊離の抑制. 第89回日本薬理学会年会, 横浜, 3月.
- 5) 西 晴久, ニヨンサバ・フランソワ (順天堂大). (一般演題 (ポスター): 細胞内・細胞間情報伝達②) マスト細胞のヒスタミン放出におけるCa<sup>2+</sup>流入とブリン受容体活性化の重要性. 第89回日本薬理学会年会, 横浜, 3月.
- 6) 鈴木江津子, 初山俊彦. (一般演題 (ポスター): ニューロン・シナプス (1)) 線条体アセチルコリン性ニューロンへのGABA性シナプス伝達に対するムスカリン受容体を介する抑制. 日本生理学会第93回大会, 札幌, 3月.
- 7) 志牟田美佐, 杉原 泉 (東京医科歯科大), 石川太郎. (一般演題 (ポスター): ニューロン・シナプス (2)) In vivo 単一小脳顆粒細胞における複数信号の光遺伝学的解析. 日本生理学会第93回大会, 札幌, 3月.

## 病 理 学 講 座

教 授: 池上 雅博	人体病理学: 消化管病理
教 授: 酒田 昭彦 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 肝とリンパ網内系の病理
教 授: 鈴木 正章 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 泌尿生殖器, 乳腺の病理
教 授: 清川 貴子 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 産婦人科の病理
准教授: 千葉 諭	人体病理学: 肝, 骨髄, 循環, 睪, 胎生形態学の病理
准教授: 鷹橋 浩幸 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 泌尿生殖器の病理, 分子病理学, 診断病理
准教授: 野村 浩一 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 産婦人科の病理
講 師: 金網友木子 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 腎臓の病理
講 師: 遠藤 泰彦 (富士市立中央病院に出自中)	人体病理学
講 師: 原田 徹	人体病理学: 呼吸器疾患, 肝疾患
講 師: 濱谷 茂治 (病院病理部に出自中)	人体病理学: 消化管病理
講 師: 小峯 多雅 (厚木市立病院に出自中)	人体病理学: 肝臓, 腎臓の三次元的構造解析

## 教育・研究概要

### I. 消化管に関する研究

1. 大腸粘膜下層 (SM) 浸潤癌のリンパ節転移 (N) 危険因子として簇出 (B), リンパ管侵襲 (Ly) および静脈侵襲 (V) が知られている。内視鏡的に切除された大腸 SM 癌のうち, N の有無が判明している 22 病変 (葛飾医療センター, 2012 年 1 月~2015 年 10 月) を対象に, B, Ly, V の組み合わせと N の有無の関係を検索した。N+ は 2/22 病変に認められ, N+ の組み合わせは, B+Ly および B+Ly+V であった。

2. 大腸神経内分泌腫瘍は, 2010 年 WHO 消化器腫瘍分類において腫瘍の核分裂数と Ki67 指数との組み合わせにより Neuroendocrine tumor Grade1, Grade2, Neuroendocrine cell carcinoma と分類されるようになった。これに伴い, 当院で過去にカルチノイド腫瘍と診断されたものを現行の診断基準に当てはめ, 再分類を行った。また, 新分類における Grade 分類と脈管侵襲の関係および転移との関係について検索した。当院でのカルチノイド

腫瘍は、内視鏡例 134 例および手術例 17 例、合計 151 例あり、これらについて HE 染色に加え、特に脈管侵襲を正しく評価するために EVG 染色および免疫染色 (CD31, D2-40, Factor VIII, MIB-1 抗体) を行い、腫瘍径や深達度, SM 浸潤距離, 核分裂数, Ki67 指数などの因子と共に、転移との関係について検討する。

3. 絨毛腺腫の病理組織学的特徴を検索する目的で、葛飾医療センターで保管されている大腸上皮性腫瘍 (2009~2016 年) を検索し、腺腫の一部に絨毛構造 (VC) を有する 74 病変を抽出した。いずれにも管状構造 (TC) が混在していた。VC を有する 1 病変を用いて、VC 領域, TC 領域, 正常腺管領域のそれぞれから、用手的に標本切離を行い、GNAS 遺伝子の変異の有無を検索し比較した。結果として、VC 領域に GNAS 遺伝子変異の可能性があり、一方、TC 領域には変異を認めなかった。

## II. 女性生殖器に関する研究

1. 卵巣明細胞癌のうち内膜症を背景に有する例では、*ARID1* 異常は発癌のみならず、腫瘍の進展にも関与している可能性を明らかにした。IL6 は *ARID1* の制御シグナルであるが、卵巣明細胞癌では *ARID1* 異常と IL6 の発現には相関を認めなかった。

2. 従来卵巣や腹膜原発とされてきた高異型漿液性腺癌 (HGSC) の中には、卵管癌の卵巣や腹膜への転移例が含まれていること、最大の腫瘍を形成する臓器が必ずしも原発巣とは限らないことが近年指摘されている。臨床的に両側卵巣癌と診断され、手術検体で卵管采を詳細に検索することにより、卵管采に HGSC およびそれと連続する上皮内漿液性腺癌を認め、卵管采原発と特定した。HGSC では、卵管特に卵管采の詳細な観察と検索により原発巣が特定できることがある。

## III. 泌尿生殖器に関する研究

1. 尿路上皮癌の原発巣および転移巣について免疫染色 (HER2, p53, Ki-67) を施行し、HER2 については ASCO/CAP ガイドラインに準じて免疫組織化学 (IHC) 法を用いて評価した。2+ のものについては FISH 法を施行して遺伝子増幅の検討を行った。結果は、約 17% の症例が IHC3+ であった。IHC2+ の症例のうち FISH 法にて 6 症例に遺伝子増幅が認められた。転移陽性例と陰性例における HER2 陽性例の割合には有意な差はみられなかった。

2. 前年度に引き続き、前立腺前方・移行領域癌

と後方・辺縁領域癌の臨床病理学的検討を行った。PTEN と SPINK1 の免疫染色を行い、領域ごとの発現の違いを比較検討した。また、ERG 陽性癌と陰性癌における SPINK1 の発現を比較検討した。前方・移行領域癌においては、後方・辺縁領域癌と比較して有意に PTEN loss の頻度が低かった。SPINK1 の発現については、有意差は認められなかった。一方、ERG の発現と SPINK1 の発現は排他的であった。

## IV. 肝臓に関する研究

1. 自己免疫性肝炎における小葉中心性壊死について検討した。72 症例の生検肝のうち、典型的な小葉中心性壊死を有する例を用いて、リンパ球系マーカー、マクロファージ系マーカー、HLA-DR マーカーについて免疫染色を施行した。いずれのマーカーにおいても、中心性壊死部>インターフェース肝炎部>背景間質で陽性細胞が認められた。中心性壊死部では、リンパ球系細胞の分布は、T 細胞>B 細胞・形質細胞で、しかも CD8 陽性 T 細胞>CD4 陽性 T 細胞であった。マクロファージ系陽性細胞は貪食マクロファージに一致した。HLA-DR はこれらの炎症性細胞で強陽性を示した。

2. 複数回生検を行っている原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の症例で、中沼分類を用いて組織学的な変化を検索し、生化学データ上の変化と相関性があるかを検討した。臨床所見 (生化学データの変化) と病理所見の相関性は、病理所見の変化と臨床データとの不一致例が多く観察された。ALP や  $\gamma$ -GTP のデータが改善しているにも関わらず、組織学的に炎症や慢性非化膿性破壊性胆管炎 (CNSDC) が見出される症例があった。PBC 症例の経過観察には、血液生化学的な検索のみではなく、状況が許す限り肝生検の施行が望ましいと考えられた。

## V. 乳腺に関する研究

1. 乳癌の MIB1 陽性細胞の核の大きさとその頻度について MIB1 陽性細胞の評価を - : 陰性, + : 陽性, ++ : 強陽性として乳癌の組織型による陽性細胞の相違について検索した。硬癌 : 小型の - 細胞が多く, +, ++ 細胞が少ない。非硬癌 (充実性腺管癌, 乳頭腺管癌, 粘液癌) : 腫瘍中心部では +, ++ 細胞がかなり多かった。辺縁部は硬癌に類似し, - 細胞が多く, 核の大きさは腫瘍の中心部に比べて小さいが、硬癌よりはやや大きかった。浸潤性乳管癌のうち非浸潤部の腺管では, +, ++ の核は硬癌より多いが非硬癌より少なかった。浸潤性小葉癌で

は、小型の－細胞が多く、＋、＋＋細胞が少なかった。

2. 良悪境界病変を約300例集め、電算化した。ある病変では病理医により、導管内病変部で、良性(過形成)～悪性(非浸潤性乳管癌)まで診断にばらつきがある症例がみられた。アクチン、p63、CD10の免疫染色で検討したところ、管内の増生部位にまで陽性所見がある(二相性が明瞭である)場合、乳頭腫であり、良性である。ところが、管の周囲のみの陽性所見がある(筋上皮がある)場合、良悪の判定にばらつきが出ていた。

## Ⅵ. 分子病理学的研究

原発性肺がんの発生・進展に関連する新規責任遺伝子の検索を行った。肺癌の発生と関連する責任遺伝子の局在を突き止める目的で肺腺がん、扁平上皮がんおよび神経内分泌性腫瘍合計306例を対象とし、8pにある19のDNAマーカーを用いPCR法によりマイクロサテライト不安定性MSI解析を行った。その結果、8p23.2、8p23.1、8p22および8p21におけるMSI頻度は、それぞれ20%、51%、24%と15%であり、8p23.1におけるMSI頻度は他の領域より有意に高いことが判明した。特にDNAマーカーである*D8SI819*におけるMSIは何れの組織型においても高頻度であったことから、肺がんの発生と関連する責任遺伝子が8p23.1に存在している可能性が示唆された。

## 「点検・評価」

例年通り、病理学講座では主として卒前・卒後教育業務、病院病理部では病理診断業務が遂行された。講座教員は、3年生、4年生の講義と病理学実習、3年生の研究室配属、6年生の選択実習を担当し、きめ細かな教育・指導を行った。病院病理部出向教員は、15,870例の病理組織診断、15,190例の細胞診断、33例の病理解剖診断などをはじめとする病理診断を主軸とする業務に携わった。とはいえ、これらの業務を完全に専業で行ったわけではなく、例年通りに教育業務と診断業務をお互いに協同し遂行した。CPC、臨床各科との症例検討会、個々の症例に関する臨床医とのディスカッションを通して、医療に貢献するとともに、初期研修医をはじめとする卒後教育にも病理医としての役割を果たした。

本年度は、1名の新人(大学院生)の入局および1名の中途入局者があった。若手医師は順調に病理医として育成され、久方ぶりに2名の病理専門医合格者が誕生した。次世代に向けて、若き指導者とし

ての期待がかけられている。また、近年では継続的に入局者がある。本学卒業者のみならず、他大学出身者や他施設で研修した病理医の入局もみられる。これには、数年前に開設した「病理学講座・病院病理部ホームページ」が一役買っているように思われる。このホームページおよび口コミを通して「慈恵医大病理は伝統ある診断病理学の教室である」という認知度が高まった結果とも考えられる。この状況を反映してか、近年の入局者においては、診断病理学について深く研鑽したい、という者が目立つ。これは実際の診断業務や学生教育においては大変喜ばしいことであるが一方で、研究に対するモチベーションを高めていくことが困難な面もあることは否めない。この点は、次年度以降の課題と思われる。

多忙なデューティーワークをこなしつつ、研究に割く時間をどうやって捻出するかについては、各人が奮闘努力していることが、個人の自己評価からも伺える。これに対処するため、若手の分院勤務医師に週1回の本院での研究日を設置したり、講座所属医師の協力の元、病院病理部では3週間に1回の土曜日を研究日に充てたりということを行っているが、なかなか研究の活性化につながらないという実情がある。これを打開するための1つの策としては、臓器別研究グループのさらなる整備が必要と考えられる。現在は、消化管、肝、婦人科、泌尿生殖器、神経などのグループが存在するが、活動が円滑に行われているグループでは、人員も確保され、まずまずの成果が上がってきている。実績の上がっているグループでは病理と当該臨床科との連携が構築されていることが特徴であり、この点からも臨床病理学的研究には、臨床医とのコミュニケーションが不可欠であることが伺える。この点からも各グループにおいて、さらに密に当該臨床科との連携を強固にし、診断から研究へと展開していくことが重要であると思われる。各々のグループに適切な若手医師を配置させ、さらなる研究の活性化を図っていくとともに、さらに臓器系の拡充に努めることも必要であろう。

個々の医師がこなしているデューティーワークには大差ないはずであるが、空いた時間を有効に活用し、コツコツと成果を積み重ねる者もいれば、なかなか成果を出せない者もある。後者においては、成果を出している者のやり方を学び、個々の観点からも仕事の効率化を模索する、ということも重要であると思われる。

## 研究業績

## I. 原著論文

- 1) Nishikimi K<sup>1)</sup>, Kiyokawa T<sup>1)</sup>, Tate S<sup>1)</sup>, Iwamoto M<sup>1)</sup>, Shozu M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Chiba Univ). ARID1A expression in ovarian clear cell carcinoma with an adenofibromatous component. *Histopathology* 2015; 67(6) : 866-71.
- 2) Lim D (Natl Univ Health System), Ip PP<sup>1)</sup>, Cheung AN<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Univ Hong Kong), Kiyokawa T, Oliva E (Massachusetts General Hosp). Immunohistochemical comparison of ovarian and uterine endometrioid carcinoma, endometrioid carcinoma with clear cell change, and clear cell carcinoma. *Am J Surg Pathol* 2015; 39(8) : 1061-9.
- 3) Karamurzin YS (North Western State Med Univ), Kiyokawa T, Parkash V (Yale Sch Med), Jotwani AR<sup>1)</sup>, Patel P<sup>1)</sup>, Pike MC<sup>1)</sup>, Soslow RA<sup>1)2)</sup> (<sup>2</sup>Weill Cornell Med Coll), Park KJ<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Memorial Sloan Kettering Cancer Ctr). Gastric-type endocervical adenocarcinoma: an aggressive tumor with unusual metastatic patterns and poor prognosis. *Am J Surg Pathol* 2015; 39(11) : 1449-57.
- 4) Iwamoto M<sup>1)</sup>, Nakatani Y<sup>1)</sup>, Fugo K<sup>1)</sup>, Kishimoto T<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Chiba Univ), Kiyokawa T. Napsin A is frequently expressed in clear cell carcinoma of the ovary and endometrium. *Hum Pathol* 2015; 46(7) : 957-62.
- 5) Gao Z<sup>1)</sup>, Hiroshima K<sup>2)</sup>, Wu X<sup>1)</sup>, Zhang J<sup>1)</sup>, Shao D (Yuyao Ctr Disease Control Prevention), Shao H<sup>1)</sup>, Yang H<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Yuyao People's Hosp), Yusa T (Chiba Rosai Hosp), Kiyokawa T, Kobayashi M<sup>2)</sup> (<sup>2</sup>Tokyo Women's Med Univ), Shinohara Y (Natl Inst Occupational Safety Health), Roe O (NTNU, Nord-Trøndelag Hosp Trust, Aalborg Univ Hosp), Zhang X (Zhejiang Academy Med Sci), Morinaga K (Environmental Restoration and Conservation Agency of Japan). Asbestos textile production linked to malignant peritoneal and pleural mesothelioma in women: analysis of 28 cases in Southeast China. *Am J Ind Med* 2015; 58(10) : 1040-9.
- 6) Kato K<sup>1)2)</sup> (<sup>2</sup>Cancer Inst Hosp), Nishikimi K<sup>1)</sup>, Tate S<sup>1)</sup>, Kiyokawa T<sup>1)</sup>, Shozu M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Chiba Univ). Histopathologic tumor spreading in primary ovarian cancer with modified posterior exenteration. *World J Surg Oncol* 2015; 13: 230.
- 7) 堀口絢奈, 梅澤 敬, 梅森宮加, 土屋幸子, 石橋智美, 副島友莉恵<sup>1)</sup>, 沢辺元司<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>東京医科歯科大), 清川貴子, 池上雅博, 鷹橋浩幸. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影下ブラシ細胞診における BD シュアパス液状化細胞診の診断精度と標本適否の検討. *日臨細胞会誌* 2015; 54(4) : 238-43.
- 8) Motohashi M<sup>1)</sup>, Wempe MF (Univ Colorado), Mutou T (SRICC), Takahashi H, Kansaku N<sup>1)</sup>, Ikegami M, Inomata T<sup>1)</sup>, Asari M<sup>1)</sup>, Wakui S<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Azabu Univ). Male rats exposed in utero to di (n-butyl) phthalate: Age-related changes in Leydig cell smooth endoplasmic reticulum and testicular testosterone-biosynthesis enzymes/proteins. *Reprod Toxicol* 2016; 59: 139-46.
- 9) Saito S, Tajiri H, Ikegami M. Endoscopic features of submucosal deeply invasive colorectal cancer with NBI characteristics: S Saito et al. Endoscopic images of early colorectal cancer. *Clin J Gastroenterol* 2015; 8(6) : 353-9.
- 10) Saito S, Tajiri H, Ikegami M. Serrated polyps of the colon and rectum: Endoscopic features including image enhanced endoscopy. *World J Gastrointest Endosc* 2015; 7(9) : 860-71.
- 11) Goda K, Dobashi A, Yoshimura N, Kato M, Aihara H, Sumiyama K, Toyozumi H, Kato T, Ikegami M, Tajiri H. Narrow-band imaging magnifying endoscopy versus lugol chromoendoscopy with pink-color sign assessment in the diagnosis of superficial esophageal squamous neoplasms: a randomised noninferiority trial. *Gastroenterol Res Pract* 2015; 2015: 639462.
- 12) Akiyama M, Yamaoka M, Mikami-Terao Y, Yokoi K, Inoue T, Hiramatsu T, Ashizuka S, Yoshizawa J, Katagi H, Ikegami M, Ida H, Nakazawa A (Natl Ctr Child Health Development), Okita H<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Natl Res Inst Child Health Development). Paraneoplastic syndrome of angiomatoid fibrous histiocytoma may be caused by EWSR1-CREB1 fusion-induced excessive interleukin-6 production. *J Pediatr Hematol Oncol* 2015; 37(7) : 554-9.
- 13) Kashiwagi Y, Nagoshi T, Yoshino T, Tanaka TD, Ito K, Harada T, Takahashi H, Ikegami M, Anzawa R, Yoshimura M. Expression of SGLT1 in human hearts and impairment of cardiac glucose uptake by phlorizin during ischemia-reperfusion injury in mice. *PLoS One* 2015; 10(6) : e0130605.
- 14) Umezawa T<sup>1)</sup>, Umemori M<sup>1)</sup>, Horiguchi A<sup>1)</sup>, Nomura K, Takahashi H, Yamada K, Ochiai K, Okamoto A, Ikegami M, Sawabe M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Med Dent Univ). Cytological variations and typical diagnostic features of endocervical adenocarcinoma in situ: a retrospective study of 74 cases. *Cytojournal* 2015; 12: 8.
- 15) Suzuki T, Suwa K, Ogawa M, Eto K, Kawahara H,



- Fujita T, Ikegami M, Yanaga K. Adjuvant chemotherapy for the perineural invasion of colorectal cancer. *J Surg Res* 2015; 199(1) : 84-9.
- 16) Mafune A, Hama T, Suda T, Suzuki Y (Int Univ Health Welfare), Ikegami M, Sakanashi C, Imai S, Nakashima A, Yokoo T, Wada K, Kojima H, Urashima M. Homozygous deletions of UGT2B17 modifies effects of smoking on TP53-mutations and relapse of head and neck carcinoma. *BMC Cancer* 2015; 15 : 205.
- 17) Wakui S<sup>1)</sup>, Motohashi M<sup>1)</sup>, Inomata T<sup>1)</sup>, Ichihara N<sup>1)</sup>, Mutou T (SRICC), Takahashi H, Ikegami M, Asari M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Azabu Univ). Three-dimensional reconstruction of deferent ducts papillae in urogenital duct system of the male rat. *Prostate* 2015; 75(6) : 646-52.
- 18) Motohashi M<sup>1)</sup>, Wakui S<sup>1)</sup>, Takahashi H, Yoshida A<sup>1)</sup>, Mutou T (Drug Safety Testing Ctr), Ikegami M, Asari M<sup>1)</sup>, Inomata T<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Azabu Univ). Adenocarcinoma of the ampullary glands of the ductus deferens in a Sprague-Dawley rat. *Toxicol Pathol* 2015; 43(4) : 593-9.
- 19) Kawaguchi K<sup>1)</sup>, Kawanishi K<sup>1)</sup>, Itabashi M<sup>1)</sup>, Fujii A<sup>1)</sup>, Kanetsuna Y, Huchinoue S<sup>1)</sup>, Ohashi R (Nippon Med Sch), Koike J (Kawasaki Municipal Tama Hosp), Honda K<sup>1)</sup>, Nagashima Y<sup>1)</sup>, Nitta K<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Women's Med Univ). Atypical hemolytic uremic syndrome diagnosed four years after ABO-incompatible kidney transplantation. *Nephrology (Carlton)* 2015; 20(Suppl.2) : 61-5.
- 20) Hojo S, Kawahara H, Watanabe K, Tomoda M, Akiba T, Kanetsuna Y, Yanaga K. Usefulness of laparoscopic surgery for acute abdomen resulting from non-occlusive mesenteric ischemia. *Jikeikai Med J* 2015; 62(2) : 59-61.
- 21) Numata T, Araya J, Mikami J, Hara H, Harada T, Takahashi H, Nakayama K, Kuwano K. A case of pulmonary lymphangioleiomyomatosis complicated with uterine and retroperitoneal tumors. *Respir Med Case Rep* 2015; 15 : 71-6.
- 22) Tomoda M, Kawahara H, Watanabe K, Akiba T, Kanetsuna Y, Yanaga K. An unusual cause of colonic perforation in ulcerative colitis accompanying with fissuring ulcer. *Jikeikai Med J* 2015; 62(4) : 95-8.
- 23) Hano H, Takasaki S, Endo Y<sup>1)</sup>, Harada T, Komine K, Koike Y<sup>1)2)</sup> (<sup>1</sup>Fuji City General Hosp, <sup>2</sup>Itabashi Chuo Med Ctr). Histological reassessment of the role of bridging fibrosis in the angioarchitectural features associated with lobular distortion of the liver in chronic viral hepatitis. *Hepatol Res* 2016; 46(3) : E70-8.
- 24) Komita H, Koido S, Hayashi K, Kan S, Ito M, Kamata Y, Suzuki M, Homma S. Expression of immune checkpoint molecules of T cell immunoglobulin and mucin protein 3/galectin-9 for NK cell suppression in human gastrointestinal stromal tumors. *Oncol Rep* 2015; 34(4) : 2099-105.
- 25) Yamaguchi N, Mimoto R, Yanaihara N, Imawari Y, Hirooka S, Okamoto A, Yoshida K. DYRK2 regulates epithelial-mesenchymal-transition and chemosensitivity through Snail degradation in ovarian serous adenocarcinoma. *Tumor Bio* 2015; 36(8) : 5913-23.
- 26) Kobayashi M, Sumiyama K, Ban Y, Dobashi A, Ohya TR, Aizawa D, Hirooka S, Nakajima K (Osaka Univ), Tajiri H. Closure of iatrogenic large mucosal and full-thickness defects of the stomach with endoscopic interrupted sutures in in vivo porcine models: are they durable enough? *BMC Gastroenterol* 2015; 15 : 5.
- 27) Yamakawa H, Yoshida M, Yamada M, Ishikawa T, Takagi M, Katagi H, Yoshida J, Kosuga T, Kuwano K. Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy associated with urothelial carcinoma of the urinary bladder: antemortem diagnosis by pulmonary microvascular cytology. *Clin Case Rep* 2015; 3(9) : 735-9.
- 28) Yamakawa H, Yoshida M, Yabe M, Baba E, Ishikawa T, Takagi M, Katagi H, Kuwano K. Useful strategy of pulmonary microvascular cytology in the early diagnosis of intravascular large B-cell lymphoma in a patient with hypoxemia: a case report and literature review. *Intern Med* 2015; 54(11) : 1403-6.
- 29) 佐藤 峻, 鷹橋浩幸. 【副腎と腎臓の腫瘍性病変－画像・臨床・病理のtriangle－】腎細胞癌と鑑別を要する腫瘍の病理. *日泌尿会誌* 2015; 31(6) : 702-16.
- 30) Sasaki H, Kido M, Miki K, Aoki M, Takahashi H, Dokiya T (Saitama Med Univ), Yamanaka H (Kurosawa Hosp), Fukushima M (Translational Res Informatics Ctr), Egawa S. Results of central pathology review of prostatic biopsies in a contemporary series from a phase III, multicenter, randomized controlled trial (SHIP0804). *Pathol Int* 2015; 65(4) : 177-82.

## II. 総 説

- 清川貴子. 婦人科がんの形態と機能の架け橋子宮平滑筋肉腫の病理像. *日婦腫瘍会誌* 2015; 33(2) : 153-60.
- 清川貴子. 【卵巣腫瘍I－病理の新しい考えかた－】性索間質性腫瘍. *病理と臨* 2015; 33(9) : 970-6.
- 清川貴子. 改訂された WHO 組織分類 (2014) にお

ける子宮体部腫瘍と子宮内膜未分化癌。病理と臨  
2015；33(9)：1024-5.

- 4) 濱谷茂治, 池上雅博, 廣岡信一, 会澤大介, 三石雄大, 斎藤彰一. 【大腸 ESD/EMR ガイドラインの正しい運用のために】 使用する側からみた運用上のポイント 病理診断. 臨消内科 2016；31(1)：69-76.
- 5) 井出大資, 斎藤彰一, 猪又寛子, 玉井尚人, 相原弘之, 池上雅博. 【カプセル内視鏡の現況と最新動向】 大腸カプセル内視鏡 腫瘍性病変の診断とその有用性. 臨消内科 2015；30(13)：1655-64.
- 6) 斎藤彰一, 池上雅博. 【解説】よくわかる大腸 ESD/EMR ガイドライン 根治性判定. Intestine 2015；19(5)：475-80.
- 7) 金網友木子<sup>1)2)</sup> (<sup>1</sup>KYK 病理組織研究所), 本田一穂<sup>2)3)</sup> (<sup>2</sup>東京女子医科大, <sup>3</sup>昭和大). 【移植医学の進歩と病理の役割】 移植病理各論 腎臓移植 拒絶反応以外の合併症. 病理と臨 2016；34(2)：158-68.
- 8) 高崎 健, 羽野 寛, 小峯多雅. ヒト正常肝末梢域における動脈枝の緩衝作用と関連したリンパ系の形態学的研究. 慈恵医大誌 2015；130(4)：83-93.
- 9) 鷹橋浩幸. 前立腺癌のリスク分類 その成り立ちと意義前立腺癌の新しいグレードグループ分類 New grading system for prostate cancer. Jpn J Diag Imaging 2016；34(1)：58.
- 10) 鷹橋浩幸, 佐藤 峻, 萬 昂士. 【前立腺がんのスクリーニングと診断】 前立腺がん病理診断の最新情報 前立腺癌の新しいグレード分類 Gleason 分類からの旅立ち. Prostate J 2015；2(2)：205-9.

### Ⅲ. 学会発表

- 1) 清川貴子. (シンポジウム 1：婦人科境界悪性腫瘍の統一見解と長期予後) 卵巣粘液性境界悪性腫瘍：病理像と予後. 第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：186]
- 2) 木村寛子, 清川貴子, 保坂倫子, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (ポスター発表 (一般) 87：人体病理 (女性生殖器 4)) 卵管采の詳細な検索により原発巣を特定しえた高異型漿液性腺癌 (HGSC) の一例. 第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：433]
- 3) 牧島 玲, 清川貴子, 岡安美央子, 鷹橋浩幸, 池上雅博. (ポスター発表 (一般) 28：人体病理 (女性生殖器 2)) 腺筋症から発生した低悪性度子宮内膜間質肉腫 (ESS) の 1 例. 第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：362]
- 4) 梅澤 敬, 清川貴子, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (細胞検査士会要望教育シンポジウム：癌取り扱い規約にそった組織像と細胞像) 子宮頸癌取り扱い規約に沿った組織像と細胞像—細胞学的立場から—. 第 56 回日本臨床

細胞学会総会春期大会. 松江, 6 月. [日臨細胞会誌 2015；54(Suppl.1)：141]

- 5) 梅森宮加, 梅澤 敬, 堀口純奈, 土屋幸子, 春間節子, 清川貴子, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (一般演題 (口演)：口腔) Orccellex—ブラシと BD シュアパス<sup>TM</sup> 法による口腔擦過細胞診. 第 56 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 松江, 6 月. [日臨細胞会誌 2015；54(Suppl.1)：190]
- 6) 梅澤 敬, 本澤恵璃, 柴田瑠子, 梅森宮加, 田所嗣美, 堀口純奈, 石橋智美, 土屋幸子, 春間節子, 根本淳, 高橋 潤, 河西美智子, 深澤 寧, 福田由美子, 保坂倫子, 木村寛子, 三石雄大, 萬 昂士, 会澤大介, 廣岡信一, 清川貴子, 池上雅博, 鷹橋浩幸. Multi-tissue control block を用いた免疫組織化学のマネジメント：外部コントロール切片による品質管理. 第 132 回成医会総会. 東京, 10 月. [慈恵医大誌 130(6)：172]
- 7) 林 勇介, 鈴木正章, 櫻井和也, 中島 研, 須藤明美, 大和田麻美子, 牧島 玲, 片木宏昭, 中村麻子, 鹿 智恵, 原田 徹, 千葉 論, 池上雅博. 組織検体における好酸球染色の検討：ハンセル染色の変法の開発. 第 132 回成医会総会. 東京, 10 月. [慈恵医大誌 130(6)：173-4]
- 8) 野崎良子, 佐藤 峻, 萬 昂士, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (ポスター発表 (学部学生) 12：学部学生 (泌尿器+男性生殖器) 腎細胞癌の pT 分類に関する臨床病理学的検討. 第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：520]
- 9) 会澤大介, 藤ヶ崎純子, 池内 聡, 松島理士, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (ポスター発表 (一般) 135：人体病理 (中枢神経系 5)) 小脳背側に発生した Neurenteric cyst の一例第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：490]
- 10) 千葉 論, 三石雄大, 牧島 玲, 片木宏昭, 中村麻子, 鹿 智恵, 原田 徹, 遠藤泰彦, 鈴木正章, 池上雅博. (ポスター発表 (一般) 113：人体病理 (臓器・分野横断的 5)) MIB1 (Ki67) 陽性細胞は核が大きいか？ 第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：466]
- 11) 萬 昂士, 佐藤 峻, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (ポスター発表 (一般) 84：人体病理 (腎・泌尿器系 2)) 転移性尿路上皮癌における HER2 過剰発現についての検討. 第 104 回日本病理学会総会. 名古屋, 4 月. [日病理会誌 2015；104(1)：429]
- 12) 原田 徹, 小峯多雅, 柳沢春華, 石川智久, 羽野 寛, 牧島 玲, 片木宏明, 中村麻子, 鈴木正章, 池上雅博. (ポスター発表 (一般) 73：人体病理 (肝臓 3)) 複数回生検にて評価し得た PBC における病理学的病勢と臨床経過との比較検討. 第 104 回日本病理学会総会.

名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 415]

- 13) 中村麻子, 浜谷茂治, 会澤大介, 廣岡信一, 池上雅博. (ポスター発表 (一般) 15: 人体病理 (下部消化管 2)) 大腸神経内分泌腫瘍の病理学的検討 特に関リンパ節転移について. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 346]
- 14) 鹿 智恵, 大和田麻美子, 須藤明美, 原田 徹, 牧島 玲, 鷹橋浩幸, 千葉 諭, 池上雅博, 羽野 寛. (ポスター発表 (一般) 1: 人体病理 (臓器・分野横断的 1)) ヒト胎児組織におけるp40の発現と意義. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 330]
- 15) 三石雄大, 廣岡信一, 濱谷茂治, 会澤大介, 鷹橋浩幸, 池上雅博. (一般口演19: 人体病理 上部消化管 1) 十二指腸の胃型粘膜内腫瘍の臨床病理学的特徴. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 305]
- 16) 鹿 智恵, 原田 徹, 鷹橋浩幸, 池上雅博, 羽野 寛. (一般口演16: 人体病理 呼吸器 腫瘍 2) 肺腺癌と扁平上皮癌におけるTTF-1タンパクの発現と意義. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 294]
- 17) 佐藤 峻, 萬 昂士, 木村高弘, 金網友木子, 中野雅貴, 池上雅博, 鷹橋浩幸. (一般口演9: 人体病理 泌尿器 2) 前立腺前方/移行領域癌の臨床病理学的および分子遺伝学的特徴. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 275]
- 18) 酒田昭彦, 小峯多雅, 柳澤春華. (一般口演34: 人体病理 肝・胆道 2) 自己免疫性肝炎におけるパラメータとしての小葉中心性壊死と炎症. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 325]
- 19) 金網友木子, 中野雅貴, 佐藤 峻. (ポスター発表 (一般) 83: 人体病理 (腎・泌尿器系 1)) 腎管状嚢胞癌の1例. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 428]
- 20) 鷹橋浩幸. (コンパニオンミーティング 3: 泌尿器病理研究会 (Japanese Society of Urological Pathology) Gleason scoreの新たな展開) 前立腺癌 Epstein/ISUP 分類の概要 - Gleason 分類からの旅立ち -. 第104回日本病理学会総会. 名古屋, 4月. [日病理会誌 2015; 104(1): 535]

#### IV. 著 書

- 1) 清川貴子. 外陰・陰・子宮頸部. 日本臨床細胞学会編. 細胞診ガイドライン 1: 婦人科・泌尿器科. 2015年版. 東京: 金原出版, 2015. p.18-50.
- 2) 清川貴子. 3章: 子宮腫瘍の概要と鑑別診断 子宮内膜癌と関連病変. 青笹克之 (大阪大) 総編集, 本山

悌一 (がん研究会がん研究所) 専門編集. 癌診療指針のための病理診断プラクティス: 婦人科腫瘍. 東京: 中山書店, 2015. p.118-34.

- 3) 清川貴子訳. 第30章: 細胞病理学. ルービン E (ジェファーソン医科大), ライスナー HM (ノースカロライナ大) 編, 河原 栄 (金沢大), 中谷行雄 (千葉大) 監訳. ルーピンカラー基本病理学. 第5版. 東京: 西村書店, 2015. p.717-21.

#### V. その他

- 1) 樫村弘隆<sup>1)</sup>, 樫村好夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>樫村胃腸科外科), 下田忠和<sup>2)</sup>, 佐々木恵子<sup>2)</sup>, 鷹尾俊達 (神戸大), 角嶋直美<sup>2)</sup>, 小野裕之<sup>2)</sup> (<sup>2)</sup>静岡県立静岡がんセンター), 金本秀行 (静岡県立総合病院), 池上雅博. 早期胃癌研究会症例異所性胃粘膜由来の十二指腸球部早期癌の1例. 胃と腸 2016; 51(3): 382-91.
- 2) 成廣哲史, 中島紳太郎, 満山喜宣, 衛藤 謙, 小村伸朗, 池上雅博, 矢永勝彦. 上行結腸孤立性転移を契機に発見された原発性小腸癌の1例. 日消外会誌 2015; 48(5): 442-8.
- 3) 森澤紀彦, 山本 泉, 川邊万佑子, 岡林佑典, 吉岡友基, 中村真未, 萬 昂士, 勝俣陽貴, 勝馬 愛, 高橋康人, 中田泰之, 丹野有道, 大城戸一郎, 坪井伸夫, 横尾 隆. 血圧低下を契機に非閉塞性腸管虚血症を発症した血液透析患者の2例. 日透析医会誌 2015; 48(11): 669-75.
- 4) 占部文彦, 田代康次郎, 木村章嗣, 木村高弘, 三木健太, 鷹橋浩幸, 颯川 晋. 緩徐な発育を示した精巣上体悪性リンパ腫の1例. 泌紀 2015; 61(12): 519-23.
- 5) Suzuki Y, Takahashi-Fujigasaki J (Tokyo Metropolitan Inst Gerontology), Akasaki Y, Matsushima S, Mori R, Karagiozov K, Joki T, Ikeuchi S, Ikegami M, Manome Y, Murayama Y. BRAF V600E-mutated diffuse glioma in an adult patient: a case report and review. Brain Tumor Pathol 2016; 33(1): 40-9.